第1次申込用

**2023年度　演習履修申込書（第1次－第1希望）**

総合情報学部長　殿

次のとおり、第１に希望する演習を申し込みます。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学籍番号 | 情21－0284 | (ﾌﾘｶﾞﾅ)氏　名 | タナカユウセイ |
| 田中悠晴 |
| 【第1希望】演習担任者 | 米澤朋子 |
| PC－mail | k364927@kansai-u.ac.jp |
| その他PC－mail |  |
| 携帯mail | seyu0930@icloud.com |
| 携帯tel | 080－7949－6708 |

**◆◆記入上の注意点◆◆**

**クラスによって、志望理由・課題の有無が異なります。**

**別紙「2023年度　演習履修要項」で字数等、担任者からの指示を必ず確認のうえ、記入してください。**

**なお、志望理由は【志望理由】（2ページ目）以下に、課題は【課題等】（3ページ目）以下にそれぞれ記入してください。**

**【志望理由】**

米澤ゼミを第一志望とした理由は二つあり、一つ目が音楽をはじめとした聴覚情報に関する研究ができるということ、二つ目が「新しい発想で人の役に立つものを作る」というゼミの理念に深く共感したからです。

 一つ目の聴覚情報に関わる研究がしたい理由として、私の趣味が音楽であるからです。また、それが生きる心の支えになったという実体験があることから、以前より聴覚情報に関する研究がしたいと考えていました。四歳の頃からピアノを初め、ギターやウクレレ、歌の練習と音楽を身近に感じながら生活してきたのですが、最近まで音楽はただ心地の良いものとして捉えていました。しかし、身内の不幸や自身の慢性的な病気、ステイホームの風潮など様々な要因が重なり、精神的に本当に辛かった時期がありました。そのような時に最も私の心を前向きにさせてくれたのがやはり音楽であり、そこから「なぜ音楽は聞いていて、弾いていて、歌っていて感情が揺さぶられるのか」「この和音やコード進行はなぜ心地いいのか」などを深く考えるようになりました。このような背景の下、米澤ゼミで研究された先輩方の卒業論文を見て、もし私がここで研究できたら技術や人として成長できるだけでなく、その過程も本当に楽しめるだろうなと感じました。特に垣内隆太さんの「音楽的制約による演奏補助,演奏学習を実現する 鍵盤型演奏インターフェース」、林亜里紗さんの「歌唱時の頭部動作や表情変化の経験による差の分析」にとても興味を持ちました。もし私がこの方々のような方向性で研究するなら、歌が好きなのに上手く歌えないといった人向けに、発声と脳内の音のずれを補正して音痴を改善するようなシステムを製作したり、発声練習を効率的に行うための研究をしたいです。また、音楽に関わる人たちがよりクリエイティブになれるように、メロディーや作りたい曲の喜怒哀楽度(悲しい曲、盛り上がる曲)などから、コード進行の候補をサジェスト(メジャーかマイナーかテンションコードを取り入れるか、何進行かなど)して音作りを支援するシステムや、歌詞を作る時に思い浮かんだワード(恋や雨といったワード)を入れるとそれに関する動画(恋と雨の場合、失恋に関する動画）が流れて具体的な場面を想像させ、より感情がのった歌詞を作る支援をするシステムの製作にも取り組んでみたいです。

 二つ目の新しく変わった発想で人の役に立つものを作るというゼミの理念に深く共感した理由として、ストレスや孤独を抱える一人でも多くの悩みを解決したいという思いを持っているからです。また将来そのような仕事をしたいとも考えています。このような考えを持った理由として、上記にもある「私自身精神的なストレスを抱えていた」ということもありますが、祖父の影響もあります。祖父は祖母が他界してから自身の趣味を楽しんではいますが、時折「一人だと寂しい」「テレビをずっとつけていないと孤独感がある」などといったつぶやきが多くなりました。祖父の家は私の家から近いのですがそれでも毎日一緒にいることはなかなか難しく、祖父の抱える悩みを未だに解決できていないのが現状です。また、これは祖父だけの悩みではなく多くの高齢者の悩みであり、いずれ高齢者となる私の問題でもあるとしだいに感じるようになりました。そうした背景から一年次にはGOBという企業が行っているビジネス創造プログラムや関西大学梅田キャンパスで開かれているセミナーなどに参加し、社会課題の捉え方や、どのように解決策を考え具体的に実行していくかなどを学んできました。しかし、考えやサービスに落とし込めても利用者に受け入れられないなど、実際に課題を解決する難しさも実感しました。その中でも特に私に足りないと実感したのが、モノを作るためのスキル不足とディスカッションや相談ができる仲間不足でした。現代はインターネットで何でも調べられて、一人でも多くのことができますが、音楽を学ぶ時でも課題解決のためモノ作りをするときでも、先人からアドバイスをもらったり、仲間同士で気持ちを高めあったりするのは非常に重要だと思っています。米澤ゼミではモノづくりを行ううえで、縦や横の仲間たちと話し合いながら、また助け合いながら人の役に立つモノを作れるとオフィスアワーでも伺ったので、心から米澤ゼミで学びたいなと思っています。

以上

**【課題等】**